# 日本天文学会早川幸男基金渡航報告書

**2006 年 9 月 10 日採択**

| **申請者氏名** | **早川基金 (会員番号 4768)** |
|---|---|
| 連絡先住所 | 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 |
| 所属機関 | 東京大学理学系研究科天文学専攻／国立天文台 ALMA 推進室 |
| 職あるいは学年 | M2 |
| 任期 (再任昇格条件) | |
| 渡航目的 | 研究集会でのポスター発表 |
| 講演・観測・研究題目 | Dense Clouds and Star Formation on Spial Arm in M33 -Deep CO and HCN observations in NGC604- |
| 渡航先 (期間) | マドリー（スペイン）(2006 年 11 月 12 日〜11 月 19 日) |

私は、2006 年 11 月 13 日〜17 日にスペインの首都マドリーで開催された「Science with ALMA; a new era for Astrophysics Intenational Conference, 2006」に参加し、「Dense Clouds and Star Formation on Spial Arm in M33 -Deep CO and HCN observations in NGC604-」というタイトルでポスター発表を行ってきました。

今回の研究集会には 250 人余りが集まり、うち、口頭発表 75 人、ポスター発表 159 人でした。研究集会の内容は 8 分野 (The project, Star formation, Proto-planets and substellar pbjects, Molecular clouds, Solar system, Evolved stars, Galaxies, High redshift galaxies and cosmology) に分けられていました。一方、ポスター発表は開催期間 5 日間のうち前半で銀河系内、後半で系外銀河をテーマに分けられていました。私のポスター発表の内容は、LocalGroup の渦巻銀 M 33 の円盤部における大質量星形成なので、後半の系外銀河、特に Glalaxies の区分に入ります。

口演スケジュールは、９時から２０時前までと長く、その代わりに昼休みが多く設けられていました。こういった時間の使い方はスペインの気風に合わせているのでしょう。そのため、我々日本人にはなじみのない時間配分でしたが、ポスターセッション用に設けられたコーヒーブレイク以外にも昼休みにも他の研究者らと話をする時間ができるという点で意外とよかったと思います。私の当初の目標は、少なくともある二人（自分と同じ観測対象 (M33,NGC604) で論文を書いていらっしゃった C.Willson さん、N.Scoville さん）に自分の研究について話を聞いてもらうこと、議論すること、コメントをもらうことでした。国際研究集会は２度目でしたが、学生はほとんどおらず、偉い人ばかりだったので、初めは緊張して、上記の二人どころか、他の人にポスターの前に来てもらってその内容を紹介することができませんでした。しかし、以前から私が存じている幸田さんに紹介してもらったことをきっかけに、念願の Willson さんに話を聞いてもらうことができ、さらに議論もすることができました。また、時間がなくて話かけることができなかったコーヒーブレイクの代わりに昼休みに、Scoville さんにも自ら話しかけることができ、自分のポスターの説明を聞いてもらうことができました。私のつたない英語でも彼は熱心に耳を傾け

てくれ、その後いくつかコメントをくれました。最後に私がこのポスターの内容に関する論文を今執筆中であることを伝えると論文を楽しみにしているよ」とおっしゃってくれました。最終的には目標の２人以上に多くの研究者の方に自分の研究成果を報告できたと思っています。お話をできたみなさんとの議論を踏まえて、現在執筆中の論文をがんばって仕上げたいと思います。一方、東大の河野孝太郎さんや野辺山天文台の久野成夫さんがASTE, 野辺山４５ m 電波望遠鏡の成果の一部として、私のポスター内容を口頭発表に交えてくださったおかげで、自ら進んで私のポスターを見に来ていただいた研究者もいらっしゃいました。久野さんの発表に含まれていた自分の研究成果に対して質問があり、初めて英語で質問に答えるということがありました。いきなりだったのでとても緊張して、質問に答えるだけでしたが、あとで「せっかく自分のポスター発表の宣伝する場所だったのに」と後悔しました。次回は心構えして質問の答えプラスちょっとしたコメントも述べられるようにしたいと思います。日ごろお世話になっている方々に現地でも大変お世話になりました。

以上のように、今回ポスター発表を行ったことで、他の研究者の意見を得られ、自分の研究を深めることができたり、国内外の研究者との交流を深めることができたりできました。最後になりましたが、この貴重な渡航を補助してくださいました早川基金および、その関係者のみなさまに、厚く御礼申し上げます。